

第7回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2013年2月16日（土） 9時30分至12時30分

■ 場所 榎町地域センター多目的ホール

■ 出席者

委員 中島座長、石崎委員、半田委員、山岸委員、牧村委員、伊藤（幸）委員、
沖山委員、中村委員、田中委員、夏山委員、貝田委員、志村委員
江木委員、伊藤（聡）委員、江田委員、小林(浩)委員、小林(智)委員、
松林委員、三又委員、百足山委員、八重樫委員、吉川委員、川嶋委員

事務局等 加賀美地域文化部長、安河内榎町特別出張所長、吉川みどり公園課長、
小俣総務部施設担当副参事、橋本文化観光課長、石塚文化資源係長、
北見主任主事（学芸員）、小泉主任主事、
株式会社丹青社

■ 欠席者 中川副座長、清水委員、桐生委員

■ 内容

1 開会

中島座長より開会を宣言

2 前回のふりかえりと本日の予定

（中島座長）

- ・ 前回は、新宿歴史博物館で普段見ることのない博物館等の裏側を見学した。
- ・ 来月には、基本計画案を区に提出することになる。本日は、事務局から素案の説明があった後、各委員よりご意見・ご感想を伺いたい。

3 （仮称）「漱石山房」記念館整備基本計画素案の説明

(1)事務局より、資料「(仮称)「漱石山房」記念館整備基本計画（素案）」に基づき、これまでの検討の結果としてとりまとめた整備基本計画の素案について説明した。

(2)質疑応答)

- ・ この記念館のめざす姿として(1)～(4)が並列されているが、施設整備の基本理念の中心に「文豪・夏目漱石初の本格的記念施設の整備」をめざすとあるので、(2)「文学館としての基本的機能を備え、初の本格的漱石記念館としての役割を果たす」が中心ではないか。そのために、「漱石山房」の可視化や、交流スペース、地域や大学等との協力連携があるのではないかと思うが、並列されている理由があれば伺いたい。

→前回の検討会で事業活動計画案について、やや総花的ではないかとうご指摘もいただいたことを踏

まえ、めざす姿をそれぞれ4つの視点からとりまとめた。文学館としての基本的機能は、区としても非常に大切なことだと捉えている。

(座長) (1)～(4)までであるが、それぞれが別の視点であり、例えば順序や字数で重要度が付けられるというものではない。

- ・講座室は何名程度の規模を想定しているのか。
- (事務局) 50名程度を収容できる規模を備えることが望ましいと考えている
- ・管理運営に関して、「区立漱石公園との一体的な整備を行うこととなっているため、公園との一体的な管理も想定される」とある。記念館内に事務室があるということは、記念館の職員が、漱石公園の管理も兼ねて行うのか、別々に管理するのか。
- (事務局) 記念館の開館後は、記念館側で一体的な管理を行うことを想定している。そのため、記念館と漱石公園の開館時間が一致もしくは非常に近くなると思われる。
- ・記念館の職員が管理するということで、漱石公園の閉鎖管理は継続されるという理解でよいか。
- (事務局) そのように考えている。いずれにしても公園と記念館の管理がちがはくにならないよう、どちらが管理するにしても、利用者に不便がないよう、また近隣の方に影響がないようしっかり管理していきたい。(※漱石公園の利用時間は4～9月は午前8時～午後7時、10～3月は午前8時～午後5時)
- ・施設の階層が2層～3層とあるが、3階の可能性もあるということか。
- (事務局) 現在の想定としては、地下1階から地上2階で、2層か3層かは地下の有無による。法令上3階を作ることも可能だが、周囲の住宅への日影の影響を考えると2階が望ましいと考えている。地下階を造ると経費が嵩むということもあるため、諸室の構成や総面積と整備費用との兼ね合いによって今後詰めていきたい。
- ・図書閲覧室が開架式とあったが、どの程度の開架を予定しているのか。
- (事務局) 初版本等の貴重書以外の書籍については、基本的には手にとっていただけるよう開架式としたい。
- ・前回までの意見で、駅から記念館まで街灯をつける、道路を整備するなどのアイデアや漱石公園に例えば池を作るなど再整備の具体案が出ていたが、基本計画案に載っていないとそういう可能性もないということになるのか心配になった。
- (事務局) 基本計画案に掲載されていないとやらないということではなく、いただいたご意見は報告書にとりまとめるので、実現できそうなアイデアについては積極的に検討していきたい。漱石公園についても、みどり公園課と連携しながら、一体的に整備していきたい。
- ・漱石公園の西側の地下に防火水槽が埋め込まれているが、このまま使用できるのか。
- 基本的にはそのまま活用できる形で記念館を整備していきたいと考えている。
- ・近くの鶴巻図書館では、漱石に力を入れていて、本も集めていると思う。この記念館の図書閲覧室は流通している図書が中心とすると、中途半端になってしまう恐れがある。同じ区の施設なので、うまく連携すれば重なり合わないようにはできるのではないか。
- (事務局) 資料のやりとり等について連携を図っていきたい。
- (委員) 実際に鶴巻図書館を見たが、漱石資料としては十分ではないので、本格的な漱石記念館の図書部門としては、もっとレベルの高いものを考えなければならない。
- (中島座長) 森鷗外記念館は実物資料を大量に持っているが、この記念館はそれがない分、森鷗外

記念館の 10 倍以上の本を開架式にするべきだと思う。研究書や古い資料はまだ購入することもできる。それから、常に漱石の情報を追って、新聞記事や関連情報について、開館前から集めていかなければならない。

- ・基本計画素案は今後どのように進んでいくのか。
- 3 月 10 日に基本計画案をご提出いただき、それに基づいて区が基本計画を策定する。いただいた様々なご意見は、区の基本計画を策定した後、報告書という形で発行し、皆さまにお配りする。

(休憩)

(3)各委員からのコメント

- ・建物をなるべく大きくというご意見もありましたが、経済的にも持続可能な施設にしていかなければならないので、2 階程度が適当だと思う。講座室は毎日使用するものではないので、50 名程度で良いと思う。抽選になってしまうというのも、次に続くということで効果的だと考えられる。それから、ここに来ればすべてが分かるという記念館であってほしい。レファレンスの機能も重視してほしい。復元については、明治時代の漱石がそこにいたような感じや、自分が漱石になった気分が味わえるようなものを期待している。
- ・町会として、世界的に著名な漱石の記念館が町にできるということに大きな期待を持っている。心配しているのは、現在、漱石公園に防災倉庫等があるため、そういったものの代替倉庫等を用意してもらえるのかということ。
- ・予算の制約もあるので、できるものは限られていると思う。仮に完璧なものもできたとしても、時間がたてばやはり見慣れてしまう。大事なことは出来上がったものがどのように生かされていくかということだと考えている。将来は孫も連れて来たい。
- ・近隣町会として、古い町なので、この際道路整備や街路樹、街灯などの整備もやっていただけたらと思う。また住宅密集地なので、公園を災害時の一時避難所として使えるようにすることも考えていただくといいと思う。
- ・隣町としても記念館ができることを楽しみにしている。整備予定地の前の道路を入っていくと早稲田小学校、牛込第二中学校、幼稚園があり、朝夕に子どもの通行が多い通学路になっているが、現状は漱石公園の前だけに歩道がある。時間帯により車は入れないとはいえ、登校時には子どもの背中側から入ってくるということで、お子さんの通学の問題もある。また隣接町会の住民が東西線の早稲田駅へ行く場合はこの道を通ることが多い。子どもたちやお年寄りが公園で休めるベンチ等を多くつくってもらえるとありがたい。また、原則的に駐車場はなく、利用者が車で来場しないことは喜んでいるが、車いすの方の駐車場が傾斜地にあるとしたら、スムーズに中に入れるようにしてもらいたい。
- ・素晴らしい記念館ができるので、長期的に活用できるよう企画・運営していかなければならない。若者の集客のため講座等を夜間に開催したり、若者に人気のある講師を呼んだりすることが必要。今後輝かしく光る記念館とするためには、絶対に若者が必要だと思う。
- ・どこの記念館、博物館でも夜間の特別企画などがあり、メトロポリタンミュージアムではワインが飲めるバルコニーもあったと記憶している。予算のこともあり、PR は本当に大変だと思うが、新宿にすばらしい記念館ができるということで、今後もできることをしていきたい。防災倉庫の話が出たので、地域の住民として期待することを考えると、せつかく大がかりな整備をするのであれば、この

施設に防火水槽や防災倉庫を設置し、を漱石の記念館であると同時に一大防災拠点として整備することもいいのではないかと思う。

- ・ 林芙美子記念館のボランティアガイドを長年やっている。そこは芙美子の思いがいっぱい詰まった旧居等を保存して後世に伝えるために、ボランティアガイドの使い勝手などほかのことは犠牲にしなければならないが、この記念館は新たにつくるのでそういうことはない。また、旅行が好きで海外にも行くが、例えばパリのコンコルド広場に、フランス革命でマリーアントワネットがギロチンで断首された場所としてプレートが埋め込まれていた。大きな歴史的事実がこの1枚のプレートによって保存され、情報を発信していることに衝撃を受けた。今、日本で漱石に向かい合おうとしている。漱石は150年近く前に生まれ、晩年の9年間は漱石山房でたくさんの著作をした。そして山房には弟子たちが集い、巣立っていった。その山房を現代によみがえらせようと、いろいろな人が関わり、5年後には姿を見せるということに興奮している。近くの小学校で読み聞かせボランティアもやっていて、先月は「吾輩は猫である」を読んだ。今を生き、これからをつなぐ場にいる自分としては漱石山房が形になることはとても楽しみである。
- ・ 今回管理運営の部分をはじめて見た。勤務している図書館には庭園があるが、図書館の運営に加えて、春夏秋冬の変化に合わせて樹木の管理を滞滞なく行っていくことは、非常に大変なことである。利用者に気持ち良く使っていただくために、細かく神経を使って管理しなければならない。管理運営方式はこれから検討していくということだが、いずれにしても建てた後の管理を考えていかないと記念館そのものが寂れてしまうこともあるので、きちんと計画を立ててほしい。
- ・ 不動産会社に勤務し、新築のマンションや家を担当している。新築のきれいな家はとても気持ちのいいものだが飽きてくる。漱石山房は古くなってきてもそれが味わいになるような建築であってほしい。また、建築だけでなく中身も重要なので、実物資料が非常に少ないことを不安に思う。資料収集に力を入れて、どのような層の方が来ても、さすがだと思ってもらえる場所にしてほしい。記念館を見て、ここであれば自分の持っている資料を保管・展示してもらおうと思ってもらえることも起こり得ると思うので、資料収集、調査研究などの学究の面も充実させるとともに、展示公開のアピールをきちんとしてほしい。
- ・ 気づいたポイントが3点ある。1点目は植栽。再現イメージにあるように、外と内とがシームレスであることが必要だが、そのためには内から実物の緑が見えて美しく、公園の外の住宅からは視線が遮られるようにする。その意味でも、「植栽・外構については、漱石公園の敷地も含め、一体的に整備する」という一文が的を射ている。2点目は管理のこと。いずれの管理の場合であっても漱石公園の閉鎖管理を継続するというのであれば、「植栽・外構・管理の一体的な整備」とすることも一つの案として提案したい。道草庵についても、減価償却期間中という課題もあるだろうが、数年前を思い起こせば分かるように、不要な施設を残しておくで荒れた状態になるので、記念館内の事務室で一体的に管理してもらうのがよい。3点目はごみ集積所。現在、漱石山房通りでは、賃貸住宅の前に集積所があり、近隣住民は助かっている。この施設でもごみ集積所の問題を加味し、今までの住民サービスに変わりがないように検討してほしい。
- ・ 検討会で食に関する話が深まっていかなかったことを残念に思う。素案の中でも品質の高いものを考えていくという漠然とした記述に留まっている。文学館や研究施設としての充実に加えて、まち歩きのための施設という部分に期待している。まち歩きには飲食が重要になる。歩き疲れたときにおいしいものを食べるというのは非常にいい思い出になるし、まち歩きと記念館での学習、飲食がそれぞれ

れ別々ではなくひとつに結びついたストーリーとなるような施設の運営を考えてほしい。今は飽食の時代なので、食べ物が名物になるかどうかは、どこでどういう状況で食べるかによって決まる。この施設が魅力的でまち歩きも楽しければ、その食べ物は人々の記憶に残り、町おこしの資産として生き残る可能性があるので、これからの施設活用計画を通じてそういうことを期待している。

- JCII という写真博物館では江戸末期や明治期の古い写真を所蔵していて神楽坂の写真も充実し展示会もやっている。そういうところとコラボレーションする場合に、自分がどういう立場で外部の方と話をするのが不明である。側面からお手伝いしていくは今後の立場がポイントになると思う。食品については消費期限など課題もあると思うが、ミュージアムショップでも提供し、一般の方々にもうなずいてもらえるようにしてほしい。
- ホームページの充実については、時間と経費を惜しまず、記念館がオープンする前に充実したものを作り、日本語・英語は最低限、ハングルや中国語にも対応していれば良いと思う。また書誌検索は使いづらいものもあるので、よく考えてつくってほしい。今、国会図書館では書物そのものが画像で見られるが、それでは記念館に来る必要がなくなってしまう。そうではなく、映像や写真をはじめ、どのような資料をどこまで見せるのかという見せ方も含めて、世界に発信するものとして、記念館ができる前に充実したものをきちんとつくってほしい。また、「漱石文学書等」とあるが、漱石俳句賞をぜひ創設してほしい。俳句人口は非常に多いので、俳句賞を創設すれば、漱石の名前の魅力とステータス加わることで、応募にお金がかかっても全国から相当な数が集まると思う。運営費にも充てられるので、ぜひそれを考えたらよいと思う。それから、来月の検討会が終わった後、検討会としては何もなく終わりといのはあまりにも寂しいので、進捗状況の報告等があるのが気になる。子規庵のボランティアや発行資料に関わっている方と話をする機会があり、漱石と子規のつながりから子規庵や松山ともパイプができるようにするとういと思った。
- 半藤末利子さんが 2013 年 12 月 13 日の毎日新聞に寄稿している。新宿区は所蔵する実物資料が少なく、漱石山房の再現は大きなポイントになるが、特別展示などの事業展開がないとリピータは訪れない。それに対して区は、地元の方や大学、民間企業などみなさんといっしょになり、区民が応援する記念館にしたいということだと思う。素案にあるように、地域連携事業をやっていくとしたら、具体的に他の記念館、美術館の実例を出し、漱石や地元を愛する方々などが、こういうことをやっているなら協力する、もっとこうしたらどうかと、これからのいろいろな計画に参加できるようにしてほしいと思う。
- 昭和 29 年に早稲田南町 7 番地にあった大工さんの 2 階で下宿をしていて、その下宿の窓の下に猫の墓が建てられた。そのときの「なんだこれは」という思いは 60 年以上続き、今回はようやく漱石の名を付けても良さそうなものができそうな千載一遇のチャンスである。何があるかわからないが、ぜひこの計画がなくならないようにしたい。3 つ申し上げる。1 つ目は、慣れ親しんだこの場所を明け渡していかれる近隣の方々には十分な配慮をしてほしい。われわれも協力するが、明け渡して良かったと思われるようなものをつくってほしい。2 つめは、公園との一体化に関する事で、行政の管轄違いの垣根を越えて、公園側もなぜ漱石の名を冠しているのかがわかるようにしてほしい。3 つ目に、管理運営の問題について、今後潤沢な資金が回ってこない中で長期的に館を維持するためには、徹底的に管理運営費を低くしなければあつと言う間に仕分けされてしまう。また、誰を記念館の館長や事務局長にするのかということ。1 年間この検討会をまとめてきた中島座長、石崎先生等が今後もプロジェクトに関わるのであれば、この検討会の声が次のプロセスに反映していく可能性がある。大学を

退官された研究者に協力を仰ぐ、それからやはり近くにある早稲田大学の先生方に助けてもらうと面白い展開になると思う。

- 日本の財産、世界の財産になってほしいという思いがあるので、その視点で、格調高い本格的な文学館・記念館をめざしてほしい。もう1つ、情報発信がとても大切になるが、区報などいろいろな形で区も発信しているが、区民にはなかなか届かないところもあるということ踏まえ、早い段階からホームページを立ち上げて情報発信をしていくことが重要だと思う。
- 出版社の代表として、地元の新宿に本格的な漱石記念館ができることを楽しみにしている。どのように育て、支え、大きくしていくかは実際にスタートしてからが大事なので、地元企業としても最大限の協力をしていきたい。活字離れが叫ばれる中、本を読む人が減っていることは事実だが、こういう記念館ができることで、読者を伸ばしていけたらと思う。素案は優等生的にできているが、2点指摘したい。「中長期的な展望においては、国内外における「漱石の情報拠点」としての役割を果たすことをめざす」とあるが、やはり世界の中の漱石という面があるので、もう少し海外の視点を強調して「国内はもとより世界にも開かれている」とか、「世界にもつながる漱石の情報拠点」というようなニュアンスを入れていただきたい。先ほどのウェブページを充実させ、しかも英語でも情報発信すべしということには全くもって同感。そうしてこそ情報拠点としてのギアがかかると思う。もう1点は、漱石公園との連続性のこと。「漱石山房」の再現は屋外空間と連続性を持った空間で行うということはそのとおりだが、まだまだ議論しなければいけない。イメージ図はあったほうが分かりやすいが難しいところがあり、それを出してしまうと逆に捉われるのではないかと危惧しているので、もう少し柔軟にしてはどうか。ともあれ、スタートしてからも協力を惜しまないつもりでいる。
- 半藤さんのご意見は厳しいがそのとおりだと改めて思った。講座があるとか図書室があるという目的を超越して、漱石記念館に行けば感動が得られるというような施設にすべき。そこで初めて差別化がある。建築の法律について少しお話をすると、フランスは「建築は文化の表現である」という表現で始まり、日本の場合は「土地に定着する工作物のうち」という表現で始まる。この素案は日本式で若干堅い。最低限は確保できるけれども、よりよいものをめざすには何かもの足りない、何かキラッと光るものがない。輝けるものというのはやはり本物だと思う。本物を体験してこそ感動するし輝けるものがある。それは何かといえば、漱石山房の復元ともう一つは漱石イコール明治時代ということだと思う。最近東京駅が復元されてとても話題になった。辰野金吾という日本人初めての建築家が設計した。そしてその近くには三菱1号館があり、これは日本に建築を持ってきたジョサイア・コンドルというイギリス人が設計したもの。そこに行くと本当に人が多い。別に展示を見に来ているわけではなくくつろぎに来ているのだが、人がそこに集まるというのはやはりそこに本物があるからだと思う。ただ、三菱1号館に行かなければ感動を得られないということはない。この早稲田の、地元の人たちが住んでいる中にそういう感動の場があっていいと思う。そこは特別に何かがあるわけではなく、本物があり、感動ができ、くつろげる建物があり、空間があるというだけでいいと思う。運営はやはりいろいろ考えなければいけないが、それ以上に充実した空間をつくるのが大切なのではないかと思った。
- 全体的に、ハードもソフトも開放的につくるということで心強く思っている。先程ご意見があった世界の漱石、世界の財産になるようなものということについては、ぜひ重点を置き、アジアという視点ももう少し強く出していきたい。では具体的にアジアとどう向き合うのか、2点ほど提案したい。中国に魯迅記念館がある。その魯迅記念館と提携することによって中国の人たちとも手を結んで

いくという手もある。国内の博物館だけではなく世界の博物館とも手を握り、お互いに情報を発信し合うということを試みてほしい。もう1点は学芸員について。この記念館は、予算の関係で学芸員が何人になるか分からないが、少なくとも1人は外国人、とりわけ中国人か韓国人にされてはどうか。彼らは恐らく英語ができるし日本語もできる。ソフトの面でもガイドができるアジア人を内部の人間としてリクルートすることを考え、アジアの漱石という視点を盛り込んで進めてもらえれば有難い。

- ・日本博物館協会の仕事をお手伝いしている中で、今この時代に新しい博物館をつくるのが本当に難しい案件であるということを通認識として持ち、覚悟をしなければいけないと思っている。今、東北の博物館の復興を主にやっている一方で、全国の県立レベルの博物館や美術館に呼ばれて行く機会があるが、多くの施設が設立後40年経過している中、なかなかリニューアルできないという状況にある。なぜそのような状況に陥っているかという、博物館や美術館の地上に現れている建物は、博物館や美術館全体の氷山の一角なのだと、県立の施設は40年かけても認識ができなかったということ。では氷山の下に隠れているものは何かというと、そこに付いてくる「人、物、金」、そしてそれを支えている設置者である。40年前につくったときの覚悟を今に引き継いでいない設置者の責任が非常に大きいと、外から見たときに強く感じる。ただ、設置者の責任だけで博物館が続いていけるのかということではない。博物館を本当に支えているのは誰なのかを考えると、これは利用者でしかない。新しい博物館施設をつくっていくための発想の転換が必要な時期だと思う。設置者がいて、それを支えていく利用者が博物館は自分たちにとってやはり必要なもの、その必要なものを支えていく主体は私たちなのだという意識を持てるかどうか非常に重要なポイントだと思う。このような検討会に参加する私たちがその後の運営にどのように関わられるのか、立場はどのようなかというお話があった。さまざまな運営形態があるけれども、例えばNPOをつくってみるなどの考えも含め、設置者として柔軟な発想の下で、どのような経営形態が可能か考え、自分たちの施設を自分たちが実際に利用しているというモチベーションの中で守っていける運営主体のもとに、海外との連携も含めた博物館にしてもらいたいと思う。先ほどのお話にもあったが、例えば5年先に立ちゆかなくなったとき、閉館しないでほしい、どうしてもここを守りたいという人たちが漱石山房の回りに集まれるような施設にしていくために、新しいノウハウも含めて柔軟に考えてもらいたい。
- ・漱石公園は抜本的にリニューアルしなければいけないと思っている。例えば、所々にモニュメントを置いた漱石の小道みたいなものをつくる。また、文献や写真にある漱石が愛した草花を中心とした漱石花壇のようなものを設置し、漱石山房を見に来た人、あるいは調べに来た人や集会に来た人たちが漱石への思いを抱いて散歩ができる空間をつくるというのはどうか。また、やはり漱石というと猫。猫も山房の住人の1匹であったわけなので、品のよい猫のモニュメントを募集するなどもアイデアとしてある。もう一つ、この記念館を含めた区内の主要な所にWi-fiスポットを置き、スマートフォンで情報を手軽に入手して利用できるようにする。ホームページとともにこういうことをやっていくことで将来的には若い世代から注目される。そればかりではなく、区内の文化施設や観光スポットの案内、あるいは書店、古本屋、協力していただける区内の店舗情報にまで広げていけば、新宿区全体の活性化につながると考えられないだろうか。文化事業は、人の問題というご指摘もあったが、将来に向けての町づくりを考えていくことが必要ではないかと考えている。一部反映されていないところもあるとは思いますが皆さんとてもいいアイデアを持っている。そして皆さん甘いブドウを味わいたいと思っている。しかしお金やいろいろな点で、私たちは酸っぱいブドウを食べさせられるかもしれない。そうならないようにするためには皆さんの情熱が必要だと思う。今このような過程をたどってい

る、今どの程度寄付金が集まっている、もう一押しだ、というように、今後もなんらかの形で継続的に情報を発信していただき、私たちはそういった活動を支えていかなければいけないのではないかと思います。

・中川副座長のメッセージ（欠席のため事務局より）

基本計画素案について、山房の再現展示イメージ図を含め、副座長の考えの範囲内であるということ、また大事な要素は盛り込んであるのでこの素案に賛成するということを皆さまにお伝えくださいとのメッセージをいただいた。

4 基金設置等に関する報告（事務局より）

（今後の検討会について）基本的には3月10日に基本計画案を提出したところで、検討会としては一区切りとなり、検討委員の皆さまの委嘱期間も3月末で終了する。いただいたご意見やアイデアは今後も記念館の整備に活かしていきたい。また、報告書がまとまった際や記念館整備に関するイベント等についてのご案内、事業に関する最新の情報についても発信していきたいと考えている。検討会終了後も皆さまと連絡を取り合ってやっていくため、住所等の個人情報を活用させていただきたいので、不都合があればお申し出いただきたい。

（夏目漱石記念施設整備基金について）資料「新宿区夏目漱石記念施設整備基金の設置について」により、新宿区議会第1回定例会への基金条例案と予算案の提出について報告を行った。

- ・基金の目的 記念館の整備のため（建設及び展示制作）
- ・基金の名称 新宿区夏目漱石記念施設整備基金
- ・区の積立金 1億円（平成25年度）
- ・寄付金目標額 2億円（開館まで）
- ・施行日 平成25年7月1日（募集開始日）
- ・周知方法等 チラシ、広報しんじゅく、区公式サイト、Twitter等の媒体を使用するほか、主催イベント（7月・2月）の開催を予定。
- ・その他 ご寄附いただいた方には、金額に応じて記念館内に設置する銘板への記名等の特典を用意。

5 本日のまとめと次回の告知

（座長）来年度予算として、基金の積立金1億円とその他の事業費2700万程度が議会で承認されれば、それがいわゆる25年度の活動費となる。基金がどの程度まで全国に認知され、寄付が集まるかはやってみないとわからないが、新宿区として1億円を用意するという宣言が出て、新たな展開になっていくと思う。

私も素案を見ていくつかの点をコメントした。イメージ図についても、前のバージョンに反対して書き替えてもらいここまで来た。今後、それぞれの過程で当然いろいろな議論が出てくる。山房の再現についても、屋根をどうするのか、書斎の中に入れるのか、ベランダに椅子を置けるのかなど問題が出てくるはずだが、これからの課題とさせていただきたい。

管理運営についても、直営にするのか指定管理者制にするのか、指定管理者制にもいろいろな問題があるし、また研究者とどう連携するのかなど課題は山積みだが、ぜひ進めていきたいと思う。

来月は整備基本計画案という形にする。大きな修正は必要ないと思うが、若干の文言の手直しについ

ては、お許しいただければ事務局と私で行いたい。国際化の問題などは力点の置き方で工夫できるし、木曜会のメンバー等についてもこういう形で出してしまうとイメージが固定されてしまう。

実際に図面を引く際にはどんな問題が出てくるかわからないので、これからも皆さまにフィードバックし、ご意見を伺いながら進めていきたい。

(事務局) 次回は、3月10日(日)午前9時30分から、場所は榎町地域センターを予定している。検討会からの整備基本計画案をいただくということで区長と特別委員の半藤末利子様の出席が予定されている。30分程度になるが石崎委員に講演をお願いしている。最終回ということで記念撮影もさせていただきたい。第6回議事要旨に修正がある場合は、2月25日(月)までに事務局にご連絡いただきたい。